

平成30年 関西電子業界新年賀詞交歓会



関西支部では、1月16日(火)に大阪のリーガロイヤルNCBにて、(一社)KEC関西電子工業振興センター、近畿地区家電流通協議会、全国電機商業組合連合会近畿地区協議会との共催により、平成30年関西電子業界新年賀詞交歓会を開催しました。

野村支部長挨拶

開会にあたり、主催4団体を代表し、当支部・野村勝明 支部長(シャープ(株) 代表取締役 副社長執行役員)より挨拶を行いました。「世界各地で社会の秩序を揺るがす出来事が続く一方で、経済は全般に上向き、貿易も拡大しています。わが国でも、企業収益は過去最高水準で、設備投資も緩やかな回復が見られます。あらゆるモノがインターネットにつながり、ビッグデータ・AIの技術で新たな価値をもたらす“Connected Industries”に向け、CPS/IoTの実装が加速して行きます。12月にスタートする新4K8K衛星放送は、受信・映像システムの市場を拡大し、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、新たな社会インフラと結びつくでしょう。業界全体で、Society 5.0の実現に向け、技術と事業を進化させ、世界に展開して行かなければなりません。JEITAでもこの対応に向け組織を改めました。昨年のCEATECは“CPS/IoT総合展示会”と銘打って2回目となり、産業用ロボット、金融、流通など多様な業界から出展いただき、活況を呈しました。関西支部においても、近畿経済産業局をはじめ関係機関と連携の下、CPS/IoTの社会実装と、新4K8K衛星放送の環境整備に取り組み、25年の万博開催に繋がりたいと存じます。」



来賓代表ご祝辞

来賓を代表し、まず近畿経済産業局の森 清 局長よりご祝辞をいただきました。「関西は食やスポーツ等で多くのベンチャーを



産んで来ました。ものづくりやバイオでも地域の特性を活かしてベンチャーを輩出できればと考えています。また、現在のプラットフォームビジネスはプライバシーやセキュリティ等に課題が多く、消費者との間に情報バンク的な存在が必要ではないでしょうか。天才が5人いればプラットフォームビジネスで大逆転も可能と考えますが、どうやって天才を発掘するか、知恵をお貸しください。万博誘致に向け、昨年末に“関西SDGsプラットフォーム”を立ち上げ、3月には“関西SDGs貢献ビジネスネットワーク”が発足します。積極的なご参加をお願いします。総務省 近畿総合通信局とも様々な取り組みで連携を強めていきたいと存じます。」

今回は初めて、近畿総合通信局の安藤英作 局長からもご祝辞をいただきました。「IoT・AIの



技術が社会を変えて行く中、関西電子業界の賀詞交歓会で初めて、近畿総合通信局長としてスピーチの機会を与えられ、感謝します。5Gの普及、電波免許制度の改革、固定網からIP網への移行、情報セキュリティの確保、4K8Kの推進、さらに関西では、万博の会場となる夢洲のスマートシティ構築や多言語対応等の課題に取り組んで参ります。情報通信白書では、IoT・AIの活用により2030年のGDPを132兆円引き上げることが可能としています。森局長も仰った様に、経済産業省 近畿経済産業局と力を合わせ、支えさせていただきます。」